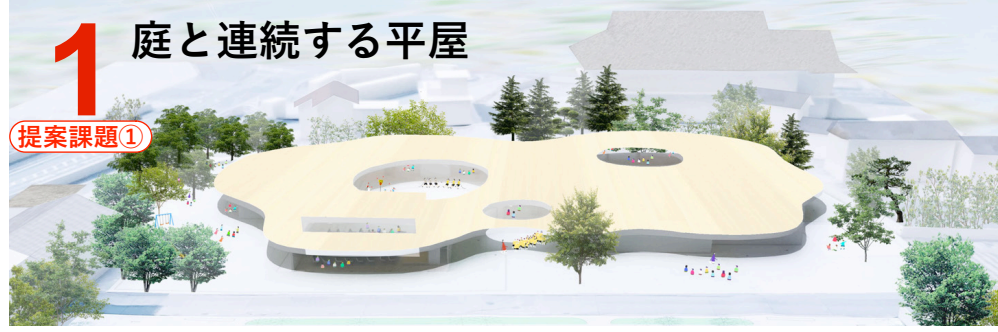


ままだ子どもの庭ほいくえん

1 庭と連続する平屋

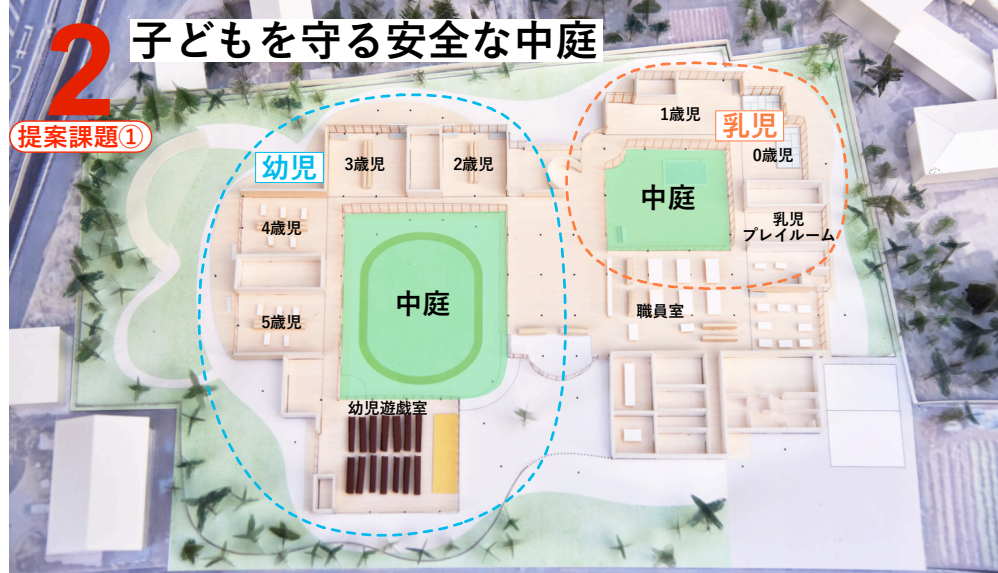
提案課題①



敷地におおらかに広がる、平屋の保育所を提案します。屋根には穴を設け、内庭をつくり、建物のまわりにも外庭を配置します。各部屋は庭とつながり内外が一体となった計画です。

2 子どもを守る安全な中庭

提案課題①

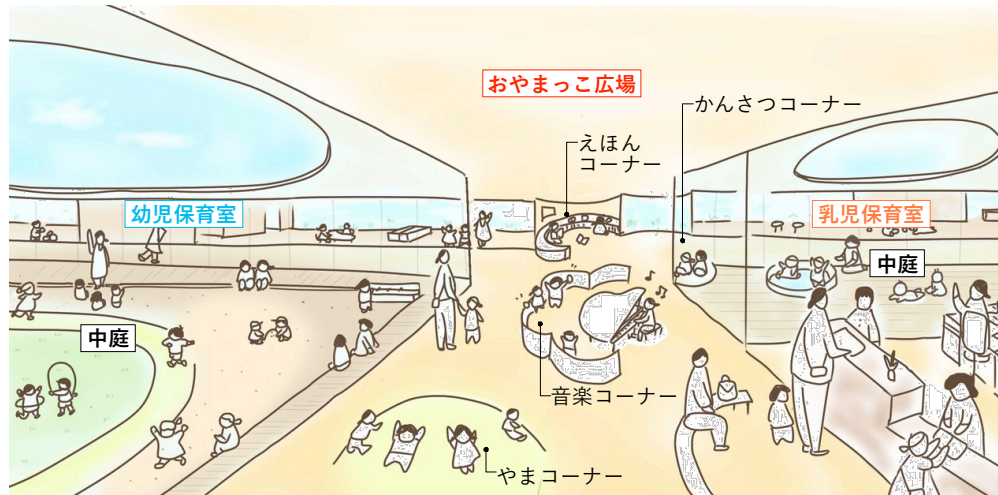
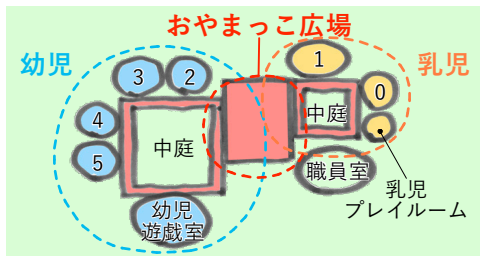


安全で守られた中庭を設けます。幼児と乳児はそれぞれ庭を中心にまとまりをつくり、成長段階の異なる2つのまとまりを明確に分けます。

3 幼児と乳児をつなぐ「おやまっこ広場」

提案課題①

幼児と乳児の間に、みんなで集まれる広場を提案します。園の中心となる場で、合同保育の場となります。

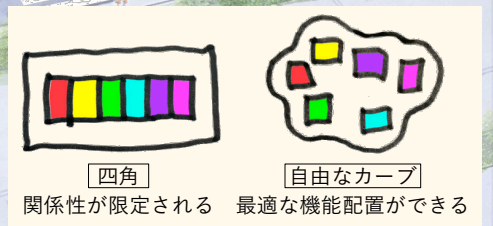


エントランスから「おやまっこ広場」をみた様子です。広場の両側には、2つの中庭があり、明るくおおらかな空間です。子どもにとって心地よい居場所となるように、やまコーナー、音楽コーナー、えほんコーナー、かんさつコーナーなどいろいろな居場所をつくり、

4 活動に対応する自由な屋根

提案課題①

保育に最適な部屋と庭の空間関係をつくり、それに自由な形の屋根をかけた建築です。どんな空間関係も可能な、フレキシブルな造形です。



5 中外をつなぐ軒下空間

提案課題①②



大きな庇は、日差しをカットし、居心地の良い空間をつくり、雨天時でも屋外活動が行える全天候型の軒下です。軒下には、ベンチや縁側が設けられ、子どもの活動の場やまちの人との交流の場となります。

6 子どもの成長段階に合わせた庭

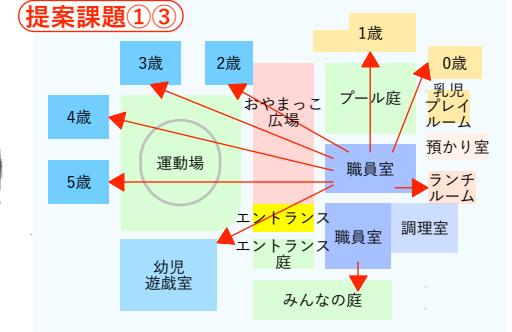
提案課題①②



子どもの成長段階や活動に合わせて複数の庭をつくり、活動的な遊びをする運動場、安全な水遊びができるプール庭、静かで落ち着いた乳児の庭、まちの人も使える庭など様々な使い方ができる庭を計画します。

7 見通しの良いプラン

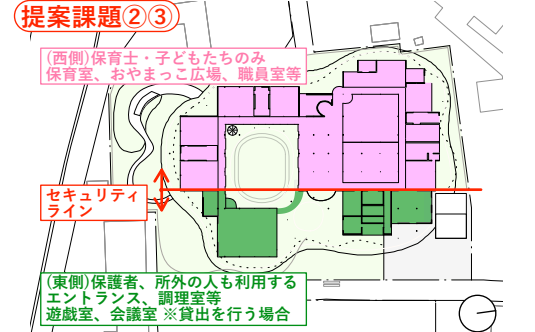
提案課題①③



職員室を園の中心に配置し、全体が見渡せることで、死角をつくらぬ安全なプランです。それにより見守りの充実が図れます。職員室はエントランスに近接し、子どもがどこにいても活動がみえる、視認性の高い計画です。

8 明快なセキュリティライン

提案課題②③



エントランスの東西で利用者範囲を分ける、明快なセキュリティゾーニングです。地域開放のエリアを限定し、保育の場と明確に分けます。安全な地域開放が可能で、管理のしやすい計画です。

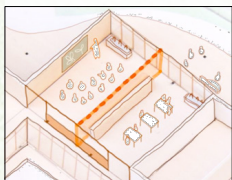
9 安心して快適な保育を支える平面計画

提案課題①②③

- ・3つの守られた中庭を中心とした構成です。同時に、建物のまわりにも園の活動を支える庭をぐるりと配置します。
- ・幼児の保育室は運動場を中心に、乳児の保育室はプール庭を中心に配置し、それぞれのエリアを明確に分けます。
- ・保育園の専用エリアと地域に開放できるエリアをセキュリティラインで明確に区画します。
- ・深い軒下の空間は、全天候型の外の遊び場となります。

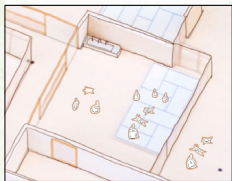


・多様で可変性のある保育室の空間



保育室は家具や建具で2つに仕切れることも可能です。

・子ども、保育士にやさしい仕上げ



木をふんだんに使い、つ、寝転んだり膝をつく床は、柔らかい素材とします。



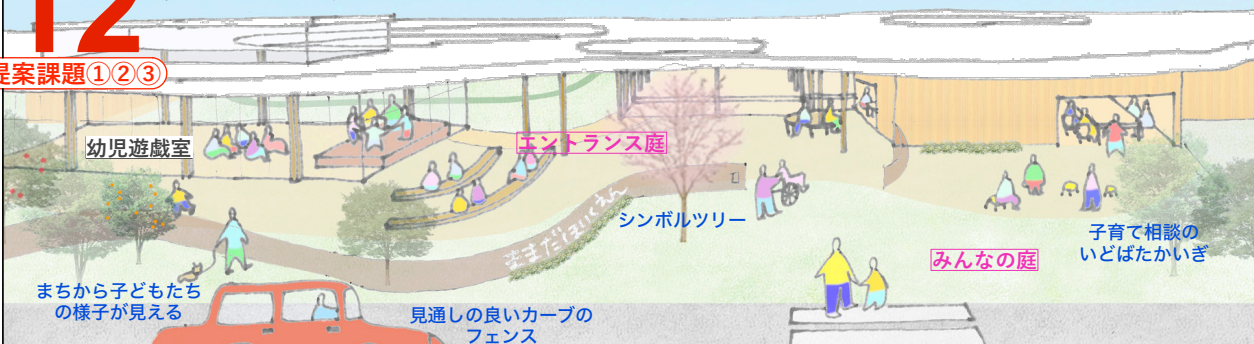
・内外に配置された、子どもスケールの空間



子どものスケールに合わせた、小さな居場所を園の内外につくります。やまの中に潜って遊べる「森のほこら」、小さな窓から外をのぞける「かんさつコーナー」、囲まれた場所の「えほんコーナー」、アンジュレーションのある「やまコーナー」など、子どもたちが発見する喜びのある場所をつくります。

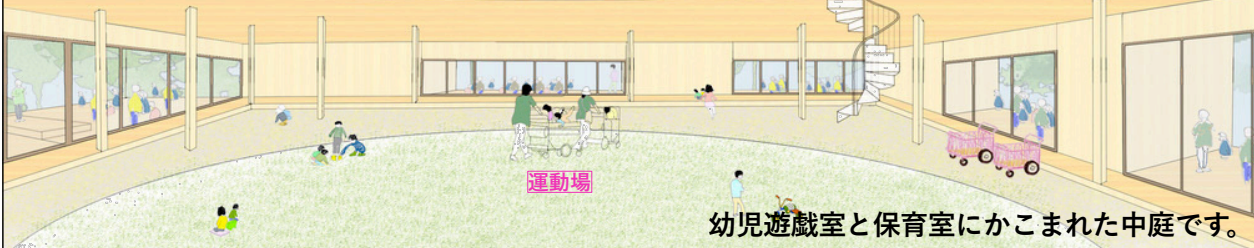
12 見通しの良い安全なアプローチ

提案課題①②③



13 幼児が思い切り走り回ることのできる、守られた運動場

提案課題①



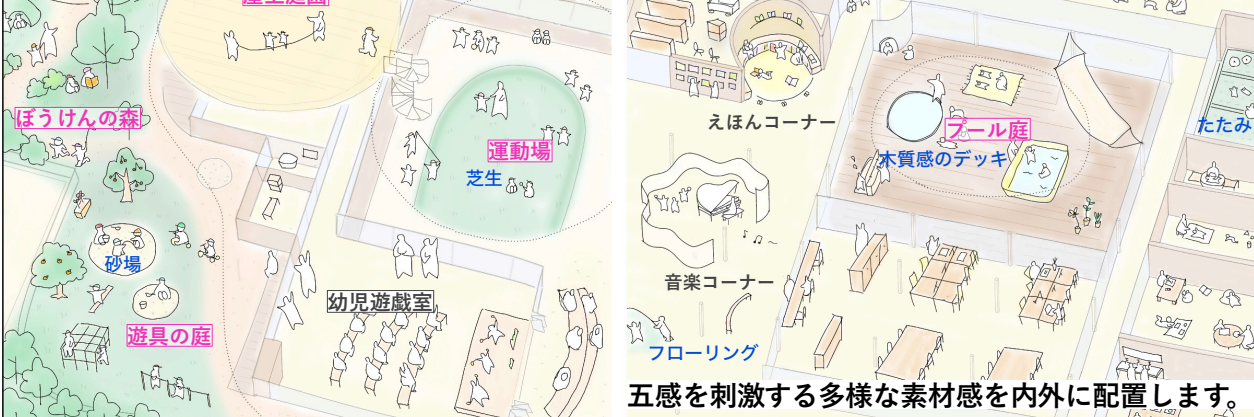
14 ふたつの庭に面した、明るく風通しのよい保育室

提案課題①



15 多様なあそび場

提案課題①

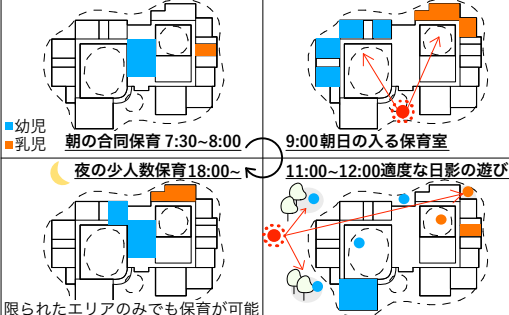


五感を刺激する多様な素材感を内外に配置します。

10 太陽の移り変わりに合わせた子どもの居場所

提案課題①

保育室は東からの朝日が入るように、外の遊び場は樹木や軒が南西の日差しに適度に影をつくるように計画しています。太陽の移り変わりに合わせた居場所は、子どもが1日のリズムを持って生活することができます。



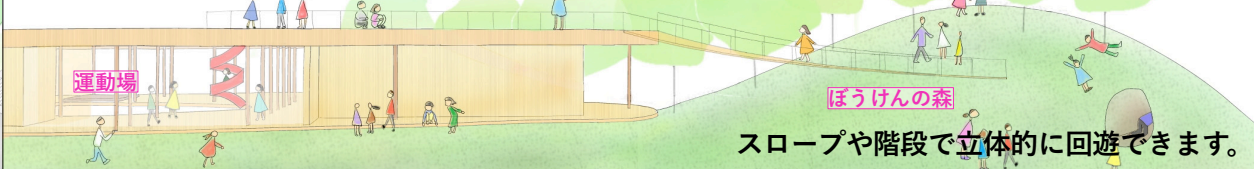
11 地域開放できる遊戯室

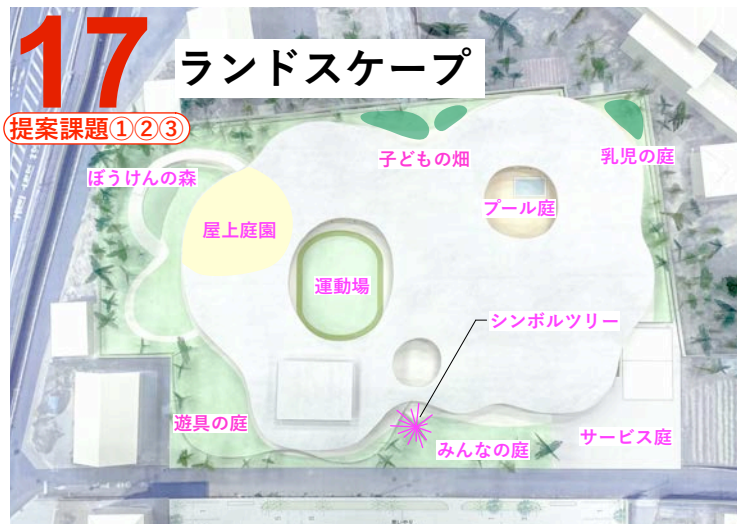
提案課題②



16 立体的な回遊性をつくる屋上庭園

提案課題①





- ・ **エントランスに園のシンボルツリーを設置**
- ・ 小山市の花であるオモイガワザクラなどを検討します。
- ・ 建物とともに記憶に残る風景をつくります。
- ・ **管理手間の少ない植栽を園の外周に配置**
- ・ 駐車場にも死角を作らないように考慮しながら、低木や生垣を植え、緑化をします。
- ・ **それぞれの庭の特徴が際立つ植栽計画**
- ・ **ぼうけんの森**→防風、目隠しの常緑樹として市の木であるシラカシ、クヌギやヤマザクラ、イヌシデを植樹します。木の枝や大きく特徴的な葉っぱ、どんぐりなどは園での工作に利用し自然への親しみを育める場をつくります。
- ・ **運動場**→自動灌水設備+天然芝を検討します。
- ・ **乳児の庭**→日陰に強いモミジ、カクレミノを植えます。

18 園舎と園庭で、食育の学びを支えます。

提案課題①

- ・ **子どもの畑**で自家栽培された作物を収穫し、調理、配膳、食事までの一連の流れを園児が体験できる仕組みを整えます。
- ・ **遊具の庭**は陽当たりが良いため、オリーブ、サクランポ、カキなど実のなる植栽を植え、景観とともに庭を彩ります。

19 非常時に備えた防災計画

提案課題①②③④

- ・ 非常時の備えを保管する備蓄倉庫を設置します。
- ・ 遊戯室や運動場は、災害時に近隣の小さな防災拠点としての利用を想定します。
- ・ 屋内消火栓用発電機を火災時以外には非常用コンセントに送電可能とし、BCP対策にも配慮します。

22 子どもと先生に優しい仕上げ

提案課題①③

天井：子どもたちの声を中心とした高音域を吸音する天井材を用います。保育士の声が届きやすい、音環境を整えます。

照明：体内リズムが作りやすいように照明は色温度調整できる仕様とします。

壁：国産の木材を利用し、温かみや香りを五感で感じられる仕上げとします。

床：滑りにくく、メンテナンスしやすいフローリングを提案します。ワックスは自然塗料を用います。ひざを着く乳児が利用する場所はビニール床+アンダーレイの仕様。

23 安全で使いやすい設え

提案課題①③

- ・ 園内で起き得る事故を未然に防げるように安全性の高い建具や納まりを使用します。
- ・ 子どもの手が触れる家具や備品の詳細に配慮します。手を挟みにくいインセット開戸やかかどが引っかかりにくい台輪を用います。

24 実施手順及び工程計画(設計プロセス)

提案課題⑤

・ **丁寧な調査とヒアリングに基づいた設計**

本提案書の作成にあたり、計画地とその周辺の見学を提案の基礎としています。既存の間々田北保育所の内部見学やヒアリングについても、施設管理者のご協力をいただき、実施いたしました。基本設計においては、敷地内より詳細な調査はもちろん、より丁寧に周辺地域の調査を行い、小山市の風土にあった保育所を設計します。また見学調査だけでなく、図面やデータによる分析も行い、計画に活かします。

20 合理的な構造計画

木+RCの混構造

提案課題①④

県産材の杉を積極的に使用し、環境に配慮した架構とします。必要な空間に応じて梁せいを変化させ、施工性に配慮した合理的な計画をします。また、地震や風などの外力に対しては、耐震性能に優れた鉄筋コンクリート構造の壁を採用し、安全性を確保します。

工期の短縮とコスト削減の提案として、型枠を残置し、そのまま「仕上げ」に活かす計画とします。上部構造を軽量の木造とすることで、基礎への負担を最小限にした直接基礎(べた基礎)とします。

21 設備計画

提案課題①④

小山市の自然環境や敷地の特性を計画に取り込みます。高気密・高断熱な外皮計画や中庭を利用した通風確保、軒がつくる日影空間などは空調を使わないですむ期間を最大化します。空調設備は高効率分散型空冷ヒートポンプとし、省エネ性能を確保しつつメンテナンスとイニシャルコストの最小化を図ります。冬期には最小限の暖房で快適に過ごせるよう、**床暖房**を計画します。

- ・ 屋上庭園の設置エリアは二重屋根により日射遮蔽します。
- ・ 井水利用ヒートポンプ利用を検討します。
- ・ 将来のNearly ZEB化を想定し、太陽光発電の設置場所を確保。
- ・ 便所洗浄水、散水利用

・ **経験豊富な、安心できるチーム体制**

子どもたちがのびのびと、健やかに毎日過ごすためには①創造的な豊かさと、②安心・安全性の、いずれもを兼ね備えた空間の実現が大切だと考えます。①②を補い合う設計JV、長年数多くの公共建築を共に設計してきた各協力事務所、小山市に支社をもつチームそれぞれが互いに密な連携をとり、協調しながら、柔軟・スムーズにプロジェクトを遂行します。

・ **計画実績や類似施設の研究**

設計チームは、特定こども・子育て支援施設や公共物件の設計経験を活かし、より良い設計を目指します。

架構ダイヤグラム 柱梁は県産材の杉を利用。

・ **設計過程を透明化し、地域に愛される保育園をつくります。**

設計の過程では、大きな模型やイメージ図等を通して、具体的なイメージを共有します。設計段階から、子育て支援事業者との連携企画等を発案し、積極的に、楽しみながら愛着のある保育園をみなさんとつくります。

子ども、保護者、保育士、職員や地域、役所の方々と積極的に意見交換する場を提案します。

令和6年(2024年) 代表的なワークショップの例

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
基本設計(4.5ヶ月)			実施設計(5.5ヶ月)							
WS	WS	WS	定例会議(月1,2回実施)		WS					
★	★	★			★					
①	②	③			④					
① キックオフ プロボ案の説明。子どもや保育士へのヒアリング。どんな場所があったら良い?		② 類似研究・見学会 やりたいことを決めていく。子育て支援の実態把握やイベントへの参加を行う。		③ 子どもと考える 子供や保護者が望む保育園のあり方は? 運営方法は? どんなことができる?		④ まちなじむ 地域イベントを開催。保育園ができる前から活動が地域に共有される。				
					施工者選定					